

# ほん屋

2017(平成29)年2月  
1号店  
店主:仲村・久高

あっという間に2月になりました。期末試験もあり、図書館で勉強する学生の姿が数多く見られます。悔いの無いように勉強し、試験に臨んでください！

また、春休み前に長期貸出がありますので、是非本を借りて、充実した春休みにしてください！

※この発刊紙は、学生が作るニュース(図書館発行)です。

“ほん屋” of the students, by the students, for the students.

さて、今回のほん屋は・・・ 図書館を支える教職員・アルバイト学生によるレビューです！学生・教職員へ薦めたい本を一人一人書いてもらいました。紹介された本は、館内で展示していますので、気になる方は是非借りてみてください！



上段(左から):久高・名城・仲村

下段(左から):宮良・網谷館長・増・又吉・田中



## 卒業・修了おめでとうございます！

5年生と専攻科2年生は3月に沖縄高専を卒業・修了し、それぞれの場所へ旅立っていきます。新しい場所でも、夢に向かって頑張ってください！

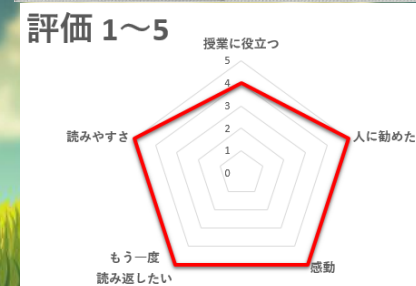
つまずいたり、困ったりしたときは、沖縄高専を思い出してください。また、好きな本を読んでリラックスするといいかもかもしれません。

本はあなたの友達です！

図書館長 網谷 厚子先生(総合科学科 教授)

### 『羊をめぐる冒険』(村上春樹)

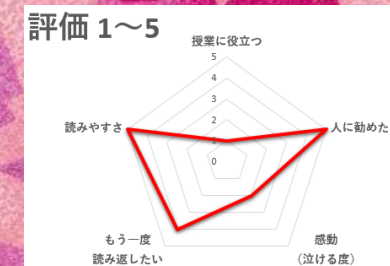
『風の歌を聴け』から熱心な村上春樹ファンであった私は、この長編で一気に「村上春樹ワールド」にはまり込んでしまった。男の子は相変わらず、どこにでもいる子であるが、彼を取り巻く登場人物は「変わり者」揃いである。現実の些末なく(憂さ)を超えて、思いもかけなく(冒険)へと連れ去ってくれる。私は『ダンス・ダンス・ダンス』や『世界の終わり』とハードボイルドワンダーランド』もお勧めしたい。



田中 瞳さん(図書係 主任)

### 『手のひらの京』(綿矢りさ)

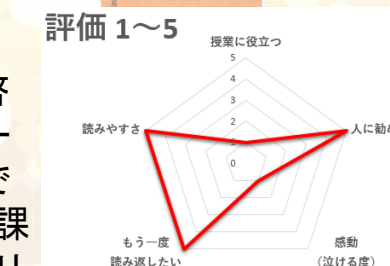
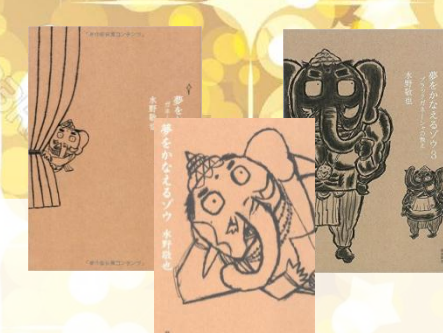
この本は、京都に暮らす、おっとりした長女、恋愛に生きる次女、自ら人生を切り開く三女とまったくタイプの異なる三姉妹が悩み葛藤しながらも成長していく姿を描く小説です。美しい京都の風景や方言の描写とともに当たり前すぎる日常感が心地よく描かれており、楽しく読み進めることができます。ぜひ手に取ってみてください。



宮良 長吾さん(図書係 係員)

### 『夢をかなえるゾウ』(水野敬也)

自信がなく、仕事にも情熱をもてずに、でも「こんな自分を変えたい！」と思っはいる、けどなかなか行動にうつせない平凡で若いサラリーマンが、関西弁で喋るおやしキャラのガネーシャ(インドの神様)と出会うところからこの物語が始まります。自己啓発本なのですが、とにかくこのガネーシャのキャラクターがとても面白くて、コントのように展開し、スラスラ進んでいきます。ガネーシャが読者に一つずつ「ガネーシャの課題」を出していき、それを読者が一つずつその課題をクリアしていくというスタイルが進められ、その内容にはハッとさせられます。今の自分を変えたい！でもなかなか行動に移せない人、これまでにまだ自己啓発本を読んだことがない人には是非、読んでほしい一冊です。





又吉 優衣さん(図書係 事務補佐員)

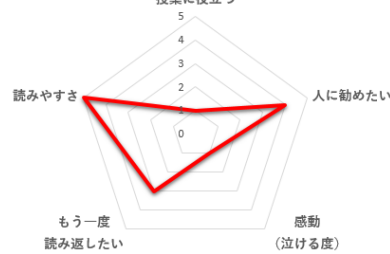
## 『大人問題』(五味太郎)

タイトルからもわかるように、この本は「世の中の大人」について物申す内容となっています。世間で常識となっている概念でも、よく考えてみると理不尽だと感じることは少なくありません。そんな常識を大人社会だけではなく子どもにも受け継いでいくことについての痛烈な批判が、作者ならではのユニークな文章で綴られています。斜に構えた物言いも、読了後には病みつきになるはず。

世間の常識に疑問を抱くあなたにオススメです。



評価 1~5



久高 優也さん(学生アルバイト@専1年 電子通信システム工学コース)

## 『世界一わかりやすい「ゲームの理論」の教科書』(小関尚紀)

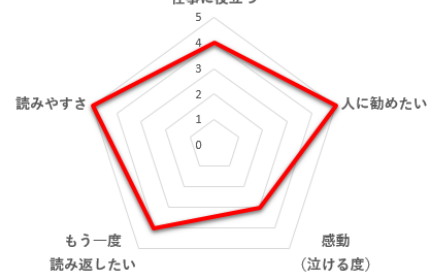
## 『女子高生ちえの社長日記』(甲斐荘正晃)

私はこの2つの本をお勧めします。どちらの本も物語風ビジネス書であり、会社勤めの登場人物たちが面白おかしく(?)日々の仕事をこなす話となっております。

物語を楽しみながら、経済学(マーケティング戦略など)や会社の様相について知ることができるので、「経済関係に興味があるけれど、なんか難しそうで手が伸びない...」という方にぜひ読んでもらいたいです。



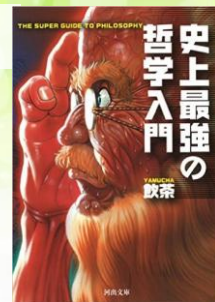
評価 1~5



名城 裕希さん(学生アルバイト@専2年 機械システム工学コース)

## 『史上最強の哲学入門』(飲茶)

刃牙でおなじみの板垣恵介が表紙を飾るこの本、史上最強の名に恥じぬ入門書です。見た目反して中身は真面目で読み辛い、なんて事は一切なく、表紙のインパクトに負けず劣らずのノリと勢いと楽しさ、そして誰もが知ってる思想や名言が生まれる基、の基を産み出した哲人、と順繰りに追うのでとても理解しやすい。深淵にハマる最初の一步として、「哲学に少し興味がある」「哲学を少し知っていればいい」という人に最適な本です



評価 1~5



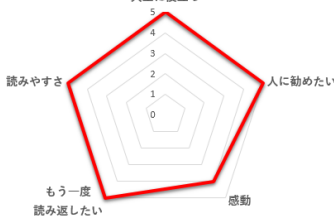
仲村 佑介さん(学生アルバイト@専1年 生物資源工学コース)

## 『フライト・ゲーム 高校生が自分と向き合うための18の方法』(松葉健司)

この本は、将来を考え始める男女2人の高校生が、突然送られてくるメールの相手とのやりとりをしながら、メールをヒントに色々なことを学び、二人が成長していくストーリーです。勉強の仕方やスポーツでの集中力など数多くのヒントが書かれ、自分と向き合えるような内容です。自己啓発のような内容ではなく、ストーリーを絡めているので、読みやすいと思います。そして最後の展開にはとても驚き、感動しました。勉強の仕方がわからない人、部活で力を発揮できていないという人、何か悩んでいるという人にオススメです。私にとって、今年度一番のオススメの本であり、是非読んでほしいです。あなたにとってのヒントが見つかるかもしれません！



評価 1~5



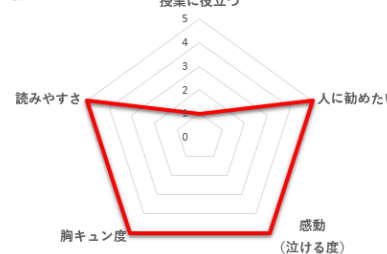
増 千絵さん(学生アルバイト@専2年 情報工学コース)

## 『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』(七月隆文)

普段は活字嫌いで滅多に本を読まない私ですが、後輩から「すごく面白いですよ!!」と進めてもらったことをきっかけにこの本に出会いました。最初読んで受けた印象としては「ありきたりな青春ストーリー」。だけどどこか違和感を感じる内容でした。しかし、読み進めるごとにその違和感が実は伏線だったことを知り、その日のうちにもう一度読み返してしまいました。話自体もとても感動でき、最後は涙腺崩壊間違いなし!...だと思えます。ということで、まだ読んでないという方にはおすすりめしたい一冊です。



評価 1~5



**返却期限迫る!**

卒業生・修了生は、本の最終返却期限が、**2月16日(木)**となっています。忘れずに返却をよろしくお願いいたします!

「立つ鳥跡を濁さず」ですよ!

**店主のつぶやき**

学期末の課題が多くあり、無事乗り切れたことに安堵しています。“これからだ!”という方はラストスパートで頑張りましょう! 来年度も「ほん屋」をよろしくお願いいたします!